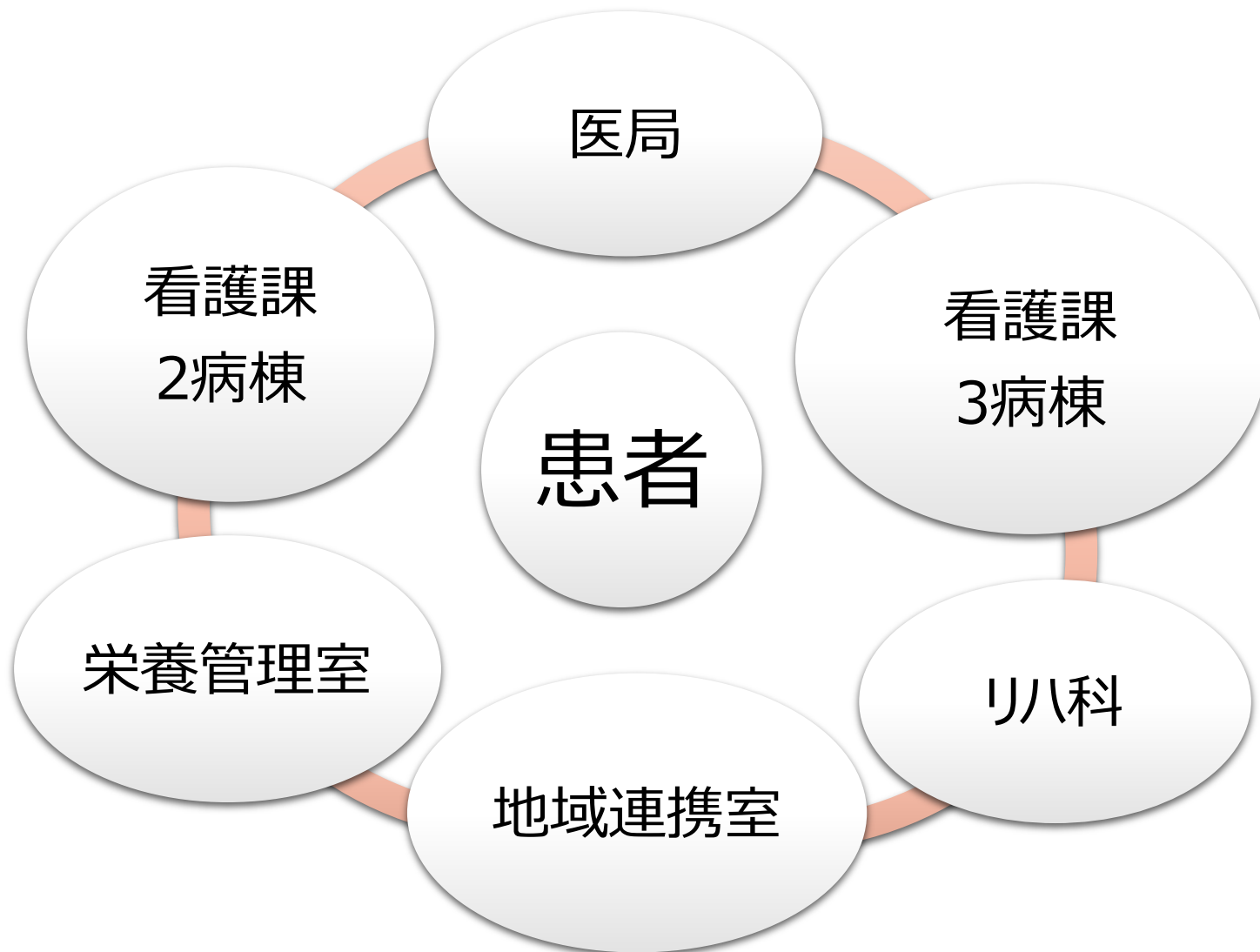


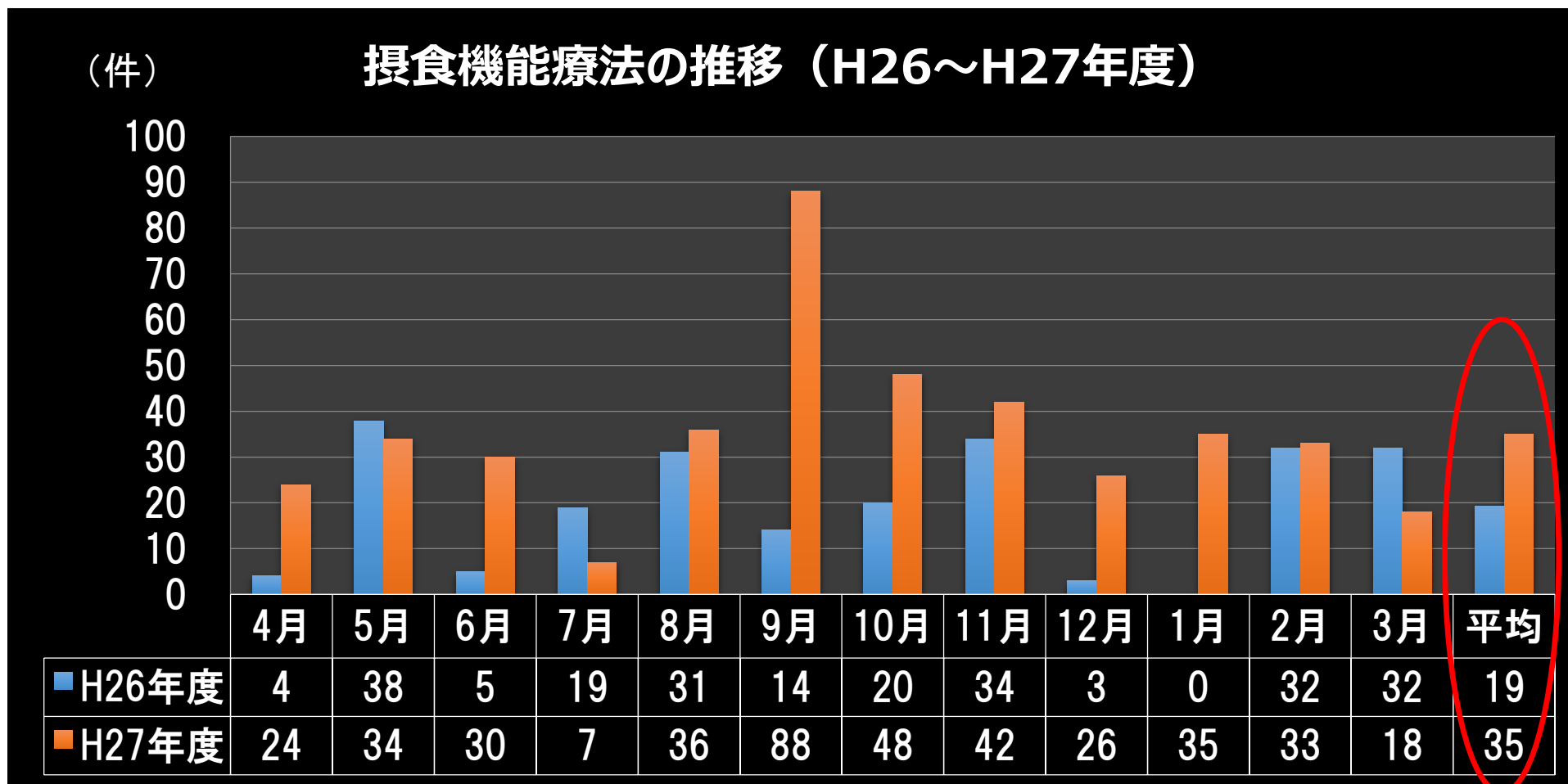
はじめに

- 当院摂食嚥下委員会は、多職種チームにて、早期より口から食べる取り組み（通称、くちプロジェクト）を実践している。
- 過去実績より、H26年度232件、H27年度421件と年々必要性が高まっている。
- さらにH28年度診療報酬改定により、算定対象が拡大された経緯を踏まえ、更なる件数向上を目標とした。

1. 当院くちプロジェクトチーム



2.目標設定



平成26年度 合計232件 (月平均19件)

平成27年度 合計421件 (月平均35件)



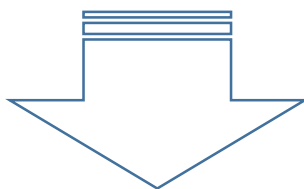
平成28年度 合計480件 (月平均40件)

3. 摂食機能療法件数向上に向けての取り組み

① 早期より口から食べる評価体制の見直し

② 評価用紙の改定

③ 関連職種への周知



目標達成

①早期より口から食べる評価体制の見直し



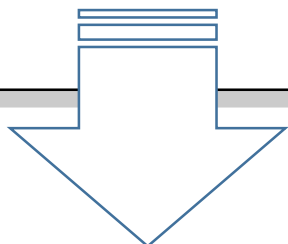
4. 摂食機能療法開始までの流れ（以前）

評価

入院時評価（スクリーニング）

耳鼻科コンサルトがない

委員会による合同評価



摂食機能療法立案 ❌

介入

摂食機能療法実施

再評価

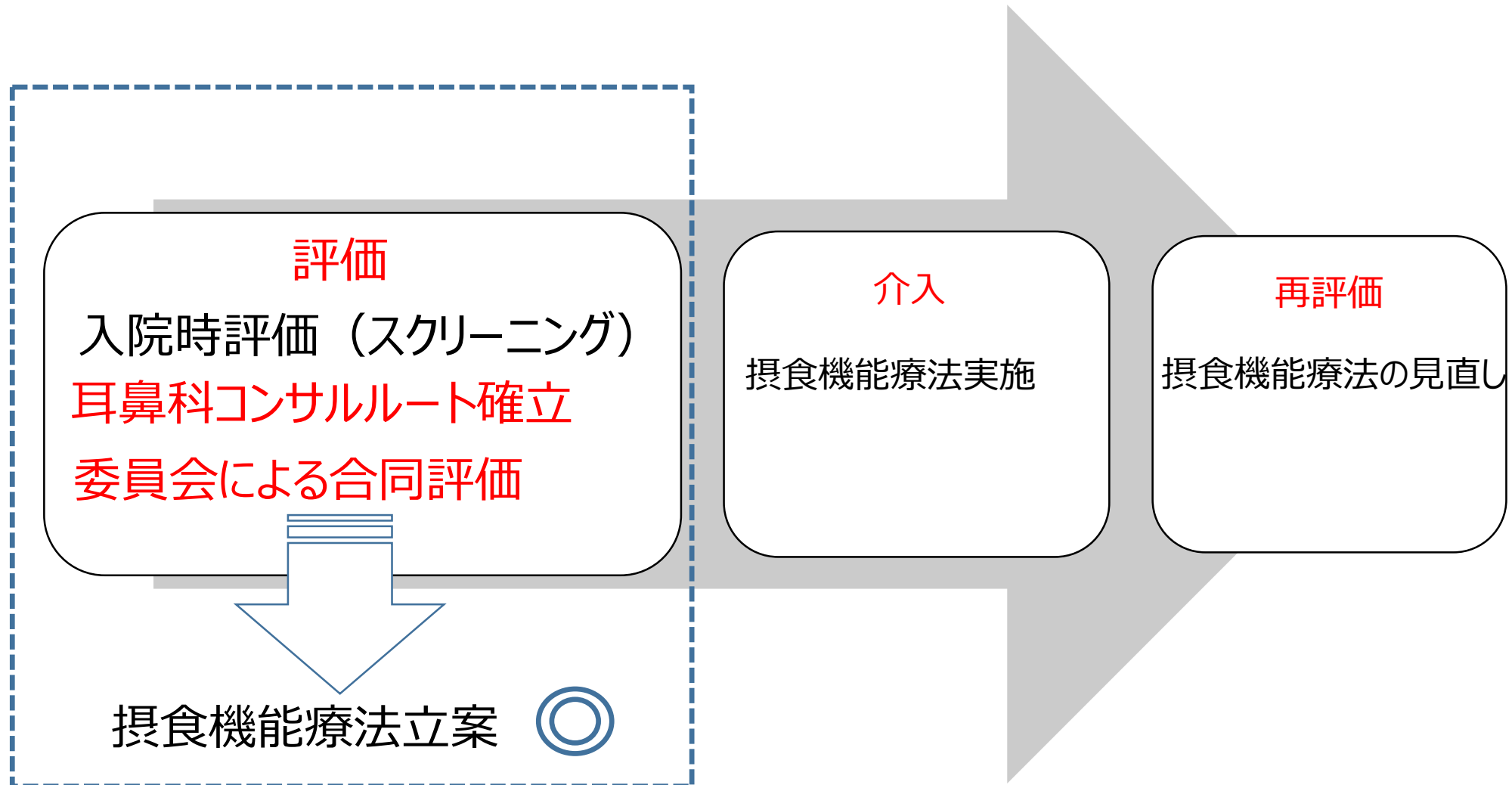
摂食機能療法の見直し

5. 医師の協力体制

嚥下内視鏡検査（VE）の必要性、依頼ルートの確認

摂食機能療法計画書開始にあたって（不在時のサイン）

6. 摂食機能療法開始までの流れ（現在）



②評価用紙の改定



7. 摂食機能療法計画（改定前）

治療開始日：平成 年 月 日
 計画日：平成 年 月 日

疾患名 (摂食機能療法適 応疾患名)	
主治医	
受持看護師	
管理栄養士 リハビリ担当	
具体的な問題点、計画内容・手順を記載	
主治医意見・指示	
問題点	
目標	
評価日： 評価	
患者・家族の同意	摂食機能療法の説明を受け、実施に同意 患者・家族サイン：

アセスメント		計画			
観察	問題点（病態）	間接訓練		直接訓練	
※基本訓練		口腔ケア	口腔下体操	呼吸訓練	嚥下訓練
先 行 期	<ul style="list-style-type: none"> 全身状態、意識レベルの確認（JCS II～以下） 指示が通るのか 食に対する意欲の有無 注意解離 口腔内貯留のまま止まる 次々に口に詰め込む、摂食ペース 坐位耐久性、姿勢の保持 	<ul style="list-style-type: none"> 座支どのくらい食べられるか視診できない <input type="checkbox"/> 注意障害 <input type="checkbox"/> 意識障害 <input type="checkbox"/> 認知症 <input type="checkbox"/> 拒食 			※実施の向上が得られた6実施
準 備 期	<ul style="list-style-type: none"> 口腔閉鎖出来るか、左右差 流せん 柔らかいものしか食べない 唾液が口角から流れ出る 口からこぼれる 箸を握せられない、持ちにくい 開口できない 体幹維持、頸部の支持の可動域 口腔内乾燥あり 齧歯がない 齧歯が合っていない 舌の動き、咀嚼状態 固形物が食べにくい 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 捕食障害 (摂食動作不十分食物を口に運べない) <input type="checkbox"/> 咀嚼・食塊形成障害 (食塊を形成できない、または不十分) 			
口 腔 期	<ul style="list-style-type: none"> 口腔閉鎖が出来ない 口腔内残留の有無、部位 舌、口唇、軟口蓋の運動 (舌動き不良・舌根沈下気味) 構音機能（聞き取りにくい） 飲み込みに時間がかかる 上を向いて飲み込む 食物を口にため込む 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 嚥頭への送り込み障害 (食物を口腔から嚥頭へ送ることが出来ない、または障害がある) <input type="checkbox"/> 早期嚥頭流入 			
	<ul style="list-style-type: none"> 嚥下、嚥頭、頸部運動 水分、食事でむせる 嚥下後に湿性咳嗽あり 喘鳴を伴う苦しいむせがある 喀痰量増加 嚥頭部ゴロ音・発聲感あり 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 鼻嚥下閉鎖不全 <input type="checkbox"/> 嚥下反射遅延 			

『計画項目』
 アセスメントした内容を計画に反映しにくい状況。
 (何を付けて良いか・・・?)



8. 摂食機能療法計画 (改定後)

治療開始日：平成 年 月 日
 計画日：平成 年 月 日

疾患名 (摂食機能療法適 応疾患名) 主治医 受持看護師 管理栄養士 リハビリ担当 具体的な問題点、計画内容・手順を記載	主治医意見・指示 問題点 目標 評価日 評価 患者・家族の同意 摂食機能療法の説明を受け、実施 患者・家族サイン：	アセスメント 観察 問題点(病態) 関接訓練 直接訓練	計画 関接訓練 直接訓練	
先 行 期		※基本訓練 □ 全身状態、意識レベルの確認 (JCS II～以下) □ 指示が通るのか □ 食に対する意欲の有無 □ 注意散漫 □ 口腔内貯留のまま止まる □ 次々に口に詰め込む、摂食ベース □ 坐位耐性、姿勢の保持	□ 口腔ケア □ 嚥下体操 □ 呼吸訓練 □ 咳漱訓練	1～6の訓練については摂食嚥下マニュアル※参照の上で実施されたら実施 □ 1. アイスマッサージ □ 2. □腔周囲筋の運動 □ 3. 唾液腺マッサージ □ 4. 舌訓練(自動・他動・抵抗運動) □ 5. 嚥下訓練 □ 6. 嚥下体操
準 備 期		□ 嚥下開始出来るか、左右差 □ 流しん □ 柔らかいものが食べれない □ 唾液が口角から流れ出る □ 口からこぼれる □ 嚥下を押し止まれない、押しにくい □ 開口できない □ 体幹維持、頸部の支持の可動域 □ 口腔内乾燥あり □ 嚥下がない □ 嚥下が合っていない □ 舌の動き、咀嚼状態 □ 固形物が食べにくい	□ 痛食障害 (摂食動作不十分食物を口にできない) □ 咀嚼・食塊形成障害 (食塊を形成できない、または不十分) □ 嚥下への送り込み障害 (食物を口腔から嚥下へ送ることが出来ない、また障害がある) □ 早期嚥下流入 □ 鼻嚥下閉鎖不全 □ 嚥下反射遅延 □ 嚥下蓋反転不全	個別性の計画(訓練内容で注意する点) □ 7. □腔ケア ・使用物品： ・方法： □ 1. 食事形態： トロミ食の有無： □ 2. 使用する食器・自助具 □ 介護食器 □ スプーン □ クスプーン □ グリップ付スプーン □ Uカップ □ 3. 摂取時のポジショニング □ リハビリへポジショニングの写真依頼(必要時) (留意点) 個別性の計画(訓練内容で注意する点) □ 4. 食事摂取時 摂食嚥下マニュアル参照 □ 頭部聴診法 □ 一〇量調整 □ 複数回嚥下 □ 横向き嚥下 □ 交互嚥下 □ 5. その他の計画内容 □ 6. その他の計画内容
□ 腔 期		□ 嚥下開始が出来ない □ 口腔内貯留の有無、部位 □ 舌、口唇、軟口蓋の運動 (舌動き不良・舌根沈下気味) □ 嚥下機能(聞き取りにくい) □ 飲み込みに時間がかかる □ 上を向いて飲み込む □ 食物を口にため込む	□ 8. その他の計画内容	□ 6. その他の計画内容

『計画項目』
 アセスメントした内容とリンクし、チェック式に変更。
 ⇒記載しやすい様式となった!!

9. 摂食機能療法評価・記録 (改定前)

	日付	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ コメント								
	時間	: ~ :	: ~ :	: ~ :	: ~ :	: ~ :	: ~ :	: ~ :	: ~ :	: ~ :		/ コメント							
	食事内容・カロリー												/ コメント						
	食欲													/ コメント					
	疲労度														/ コメント				
	食事摂取量															/ コメント			
	食後の口腔内状況																/ コメント		
介助の有無										/ コメント									
食事摂取所要時間											/ コメント								
体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃			/ コメント							
先行期	覚醒レベル													/ コメント					
	食事を見た時の反応														/ コメント				
	摂食中の注意力・集中力															/ コメント			
	摂食スピード																/ コメント		
	一口量												/ コメント						
	体位・体幹角度 (姿勢の安定)										/ コメント								
	首の動き											/ コメント							
摂食環境 (用具・テーブル・椅子)										/ コメント									
準備期	食前の口腔状態														/ コメント				
	歯 (齧歯) の状態															/ コメント			
	口唇閉鎖																/ コメント		
	咀嚼運動													/ コメント					
口腔期	食べこぼし・流涎												/ コメント						
	嚥下までの時間											/ コメント							
	舌の運動										/ コメント								
咽頭期	口腔残留												【評価】						
	むせの有無											【評価】							
	水分										【評価】								
	ゼリー状													【評価】					
	固形物														【評価】				
	ミキサー状															【評価】			
	咳嗽																【評価】		
	気道内分泌物 (痰)																	【評価】	
	咽頭のごろつき																		【評価】
	飲み込んだ後の声の変化																		
食道期	胸のつかえ												【評価】						
	嘔吐											【評価】							
	しゃっくり										【評価】								
	合計/サイン												【評価】						

・『摂食機能療法計画』とリンクしていない。
 ・項目が多すぎる。

3: 良 2: やや不良 1: 不良

伊万里松浦病院



10. 摂食機能療法評価・記録 (改定後)

日付	実施時間	実施内容(数字記入)	記録	実施者
例 O/O	11:30~12:30	①~⑤	自由記載	
/	= ~ =			
/	= ~ =			
/	= ~ =			
/	= ~ =			
/	= ~ =			
/	= ~ =			
/	= ~ =			
/	= ~ =			
/	= ~ =			
/	= ~ =			
/	= ~ =			
/	= ~ =			
/	= ~ =			

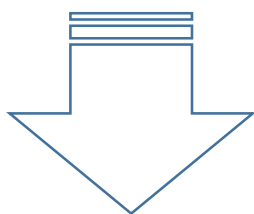
- ・項目数を必要最小限
- ・『摂食機能療法計画』とリンクした記載ができるよう変更。

JCHO伊万里松浦病院 摂食嚥下委員会

11. 栄養管理室による入院時評価

EAT-10

嚥下スクリーニングツール



嚥下障害患者の掘り起し

UP!!

質問1: 飲み込みの問題が原因で、体重が減少した 0 問題なし 1 2 3 4=ひどく問題	<input type="checkbox"/>	質問6: 飲み込むことが苦痛だ 0 問題なし 1 2 3 4=ひどく問題	<input type="checkbox"/>
質問2: 飲み込みの問題が外出に行くための障害になっている 0 問題なし 1 2 3 4=ひどく問題	<input type="checkbox"/>	質問7: 食べる喜びが飲み込みによって影響を受けている 0 問題なし 1 2 3 4=ひどく問題	<input type="checkbox"/>
質問3: 液体を飲み込む時に、余分な努力が必要だ 0 問題なし 1 2 3 4=ひどく問題	<input type="checkbox"/>	質問8: 飲み込む時に食べ物がのどに引っかかる 0 問題なし 1 2 3 4=ひどく問題	<input type="checkbox"/>
質問4: 固形物を飲み込む時に、余分な努力が必要だ 0 問題なし 1 2 3 4=ひどく問題	<input type="checkbox"/>	質問9: 食べる時に痰が出る 0 問題なし 1 2 3 4=ひどく問題	<input type="checkbox"/>
質問5: 錠剤を飲み込む時に、余分な努力が必要だ 0 問題なし 1 2 3 4=ひどく問題	<input type="checkbox"/>	質問10: 飲み込むことはストレスが多い 0 問題なし 1 2 3 4=ひどく問題	<input type="checkbox"/>

③ 関連職種への周知

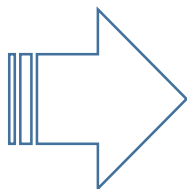
摂食嚥下サポーター養成講座の開催 H29年1月20日 当院会議室

参加者数：38名

内訳：医師、看護師、看護助手、介護福祉士、管理栄養士、作業療法士、理学療法士

アンケート結果（27名回収）のまとめ

- ・「非常によかった」「よかった」が全員の回答
- ・摂食嚥下の理解ができた。
- ・実際の場面に生かしていきたい。

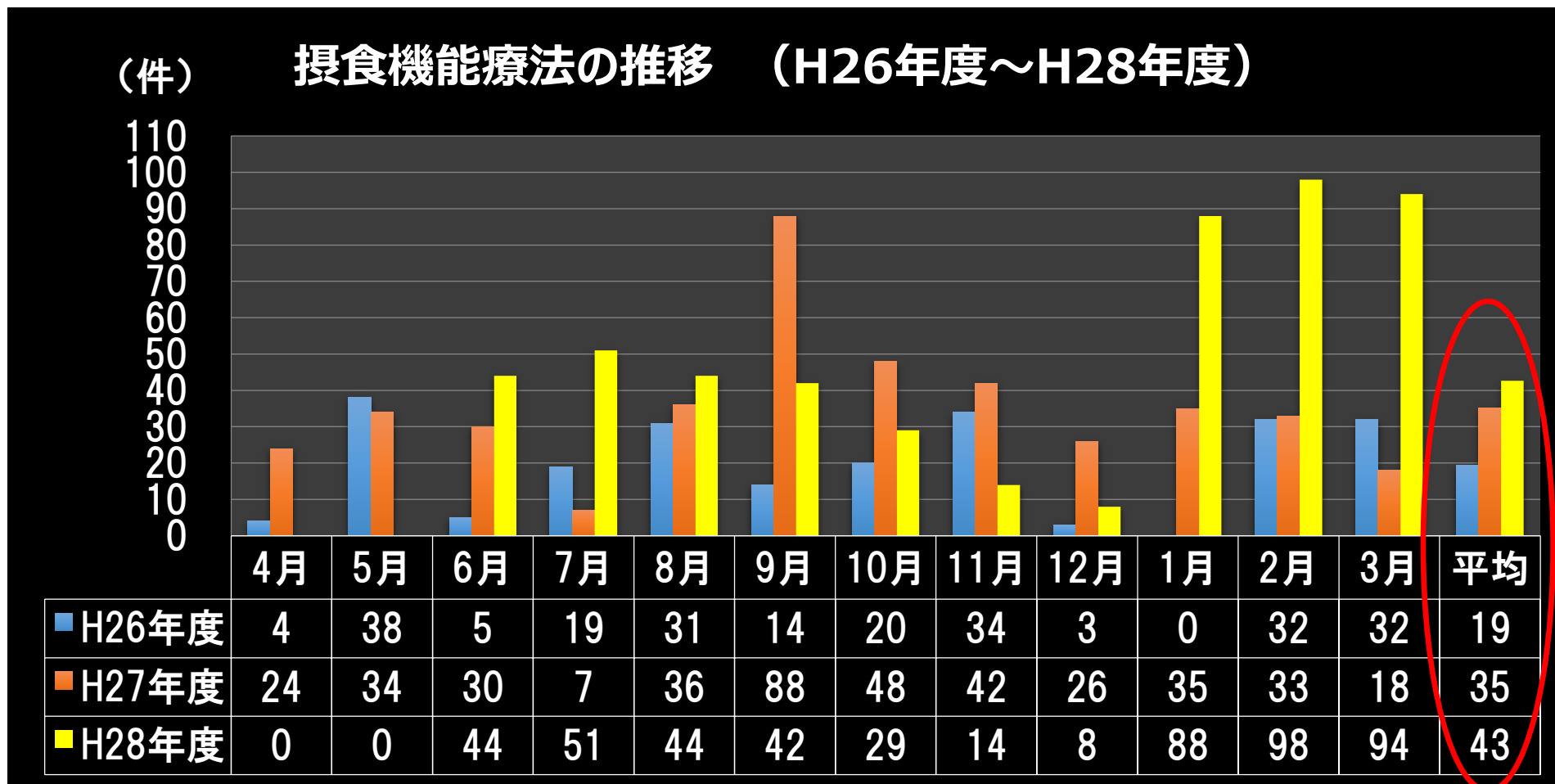


知識・技術の共有化



結果

目標達成!!



平成27年度 合計421件 (月平均35件)



平成28年度 合計516件 (月平均43件)

考察

～摂食機能療法の算定拡大に向けて～

<成功要因>

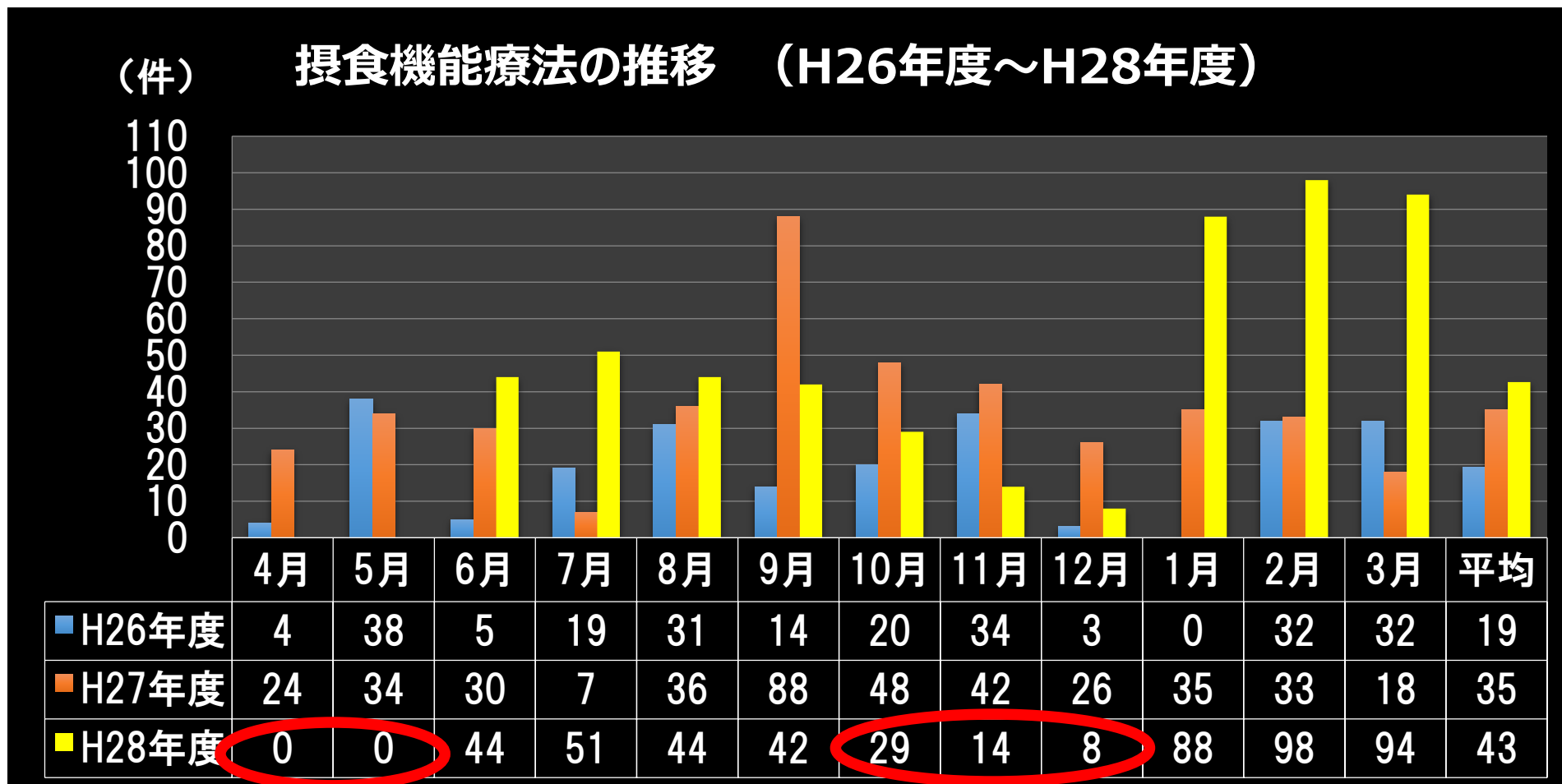
①早期より口から食べる評価体制の見直し

②評価用紙の改定

③関連職種への周知

次年度に向けての課題

～摂食機能療法を必要な方に提供できる体制づくり～



課題の対策案

評価

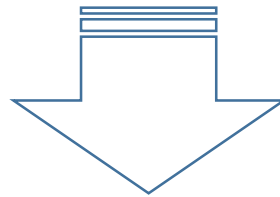
摂食機能療法立案

介入

摂食機能療法
実施

再評価

摂食機能療法の
見直し



嚥下回診（ラウンド）強化

まとめ

- ・今年度目標を月40件、年間480件に設定し、目標達成することが出来た。（摂食機能療法件数向上）
- ・成功要因として、ルートの見直し、評価用紙の改定、関連職種への周知が効果的であった。
- ・次年度は、多職種協働によるラウンド強化、またJCHOミッションに基づいた地域住民、医療従事者向けの出前講座を推進していく。